

北九州市医師会『受動喫煙防止宣言』

～受動喫煙ゼロの健康未来都市をめざして～

喫煙は、肺がんをはじめとするさまざまな「がん」だけでなく、COPD(慢性閉塞性肺疾患)、脳卒中や心筋梗塞など、多くの疾患の要因となります。また、受動喫煙で肺がんの発症リスクが高くなることも科学的に証明されています。

他の先進諸国に比べ喫煙率の高いわが国において、北九州市は喫煙率が23.3%(国民生活基礎調査2014年)と全国21大都市圏の中で4番目に高く、タバコ対策は市民の健康を守るための喫煙の課題です。喫煙率低下を進め、タバコのない街を目指すのが理想ですが、直ちに喫煙ゼロの街にすることは現実的に困難です。

しかし、受動喫煙は『タバコを吸わない方』にとって大きな健康被害を引き起こすため、飲食店を含めた不特定多数の人が集まる場所での受動喫煙は防止されるべきであり、それは喫煙者が受動喫煙の及ぼす健康被害を理解し協力することで十分に実現可能と思われます。

北九州市医師会は地域の健康といのちを守る使命を担っており、受動喫煙から非喫煙者をまもるため、また次世代に素晴らしい生活環境を引き継ぐためここに『受動喫煙防止宣言』を表明し、受動喫煙ゼロの健康未来都市を目指して、以下のことに積極的に取り組みます。

- 一. 不特定多数が集まる場所での建物内全面禁煙推進を自治体へ強く働きかけます。
- 一. 公共の場(役所・学校等)、医療機関の敷地内禁煙を徹底・促進します。
- 一. 祭などの地域イベントでは子どもを受動喫煙から守るために準備期間を含め屋外でも喫煙は指定場所のみとするよう管理者に働きかけます。
- 一. 子ども達が将来喫煙しないよう健康教育を推進します。
- 一. 喫煙と受動喫煙の健康被害についてさらに広く啓発します。

平成29年3月22日

公益社団法人 北九州市医師会